



申8号「新潟支社における運輸車両部門の組織再編について」に対する第一次申し入れ 施策の目的とスケジュールの説明を求める！

10月25日申8号団体交渉を行いました。運輸職場で施策の説明が行われる中、多くの社員から疑問と不安の声が寄せられていることから、改めて施策実施の目的とスケジュールを明らかにすることを求めました。

1. 本施策の目的を明らかにすること。

回答。「変革2027」のもと、仕事の垣根を越えた柔軟な働き方を実現し、企画業務の移管や業務の融合などを推進するため実施するものである。

- ・この施策により一人一人が担務にとらわれることなく、キャリアイメージを広げられる。
- ・業務融合により安全、サービス面でも向上する。施策実施による一時的なコスト発生はあるが長期的に見ればコスト面でも効果が予想される。
- ・関係社員への説明は終了している。今後も現場長、支社の判断で説明会は開催する。

2. 車両部門を新潟車両センター拠点とする目的を明らかにすること。

回答。「変革2027」のもと、仕事の垣根を越えた柔軟な働き方を実現し、企画業務の移管や業務の融合などを推進するため実施するものである。

- ・S&E構想の中で各エリアの拠点集約を説明している。効率・設備など考え新潟車両センターと判断した。
- ・複数車種教育スケジュールや業務量増減については現在検討中である。

3. 長岡車両センターを廃止する目的を明らかにすること。

回答。車両メンテナンス業務及び内勤業務を新潟車両センターへ集約することに伴い、効率的な業務執行体制とするものである。

- ・冬期石打凍結対策など新潟・新津から派遣する。予報によっては長岡でのテレワークも検討。職場はなくなるが必要な業務は引き継がれる。
- ・PRCは建物含め長岡営業統括センター所属となり、構内も線路は長岡営業統括センター管理となる。検修設備は新潟車両センター管理となる。構内除雪は設備含めて総体で対応する。

4. 新津運輸区の検修部門を新潟車両センターへ集約する目的を明らかにすること。

回答。車両メンテナンス業務及び内勤業務を新潟車両センターへ集約することに伴い、効率的な業務執行体制とするものである。

- ・運輸区として乗務員と同一職場のメリットもあつたが、近年は状況が変わり車両故障も指令を介している。
- ・臨修や古い車両の検査、資材、構内は新津に残る。資材管理は新潟で一括することは考えていない。

5. 新潟運輸区を乗務員養成“指導の拠点とする目的を明らかにすること。

回答。「変革2027」のもと、仕事の垣根を越えた柔軟な働き方を実現し、企画業務の移管や業務の融合などを推進するため実施するものである。

- ・歓呼や取扱いの統一が図れる。訓練資料は共通事項、取扱いの変更などまとめることで時間短縮になる。